

進路指導の実態レポート 3

静岡県立 富士高校

教員全員で生徒の進路指導に関わり、緻密に志望校を検討しています



静岡県立富士高校▲静岡県富士市▲1923年に旧制中学校として開校▲全日制・定時制・男女共学(普通科、理数科)生徒数981名▲大学合格実績:国公立/206名、私立/常葉、法政、明治学院、芝浦工業、東京都立、日本、東京理科大学、中央、立命館、明治、専修、千葉工業、駒澤、東洋、東京電機、立教、青山学院 他



進路課長 望月伸浩  
もちづきのぶひる ● 教職歴31年。同校赴任歴12年目。進路課長。数学科。進路指導では「生徒が自分の可能性にチャレンジすることを大事にしている。」

路選択ができるよう後押しし、必要な学力を身につけて送り出した。そんな思いで、3年間を通じた進路指導を行っています。

進路指導を充実させるしくみとして20年以上続けているのが、「入試検討会」です。校内実力テストの分析や指導の検討は学年ごとに行っていますが、3年生の入試検討会には全学年の教員全員が参加します。実力テストと模試結果の分析、面談に向けた目線合わせなど、さまざまな生徒への指導ノウハウを共有・蓄積するだけでなく、出願パターンの検討を行い、生徒の可能性を全教員で見極めます。

学びと社会をつなげて考える指導

3年間の進路指導において、2年生は「文理選択」に向けて、1

年生は「学部・学科研究」を深める中で、自分の学びを社会とつながらせて考えられるような場や機会を設けています。

例えば、1年生には、夏休みに職場体験を実施しています。地元企業の企業や役所などに行き、話を聞いたり見学をしたりする中で、働くことと社会のつながり、社会貢献について考えます。文理選択前に、広い視野から学びの意義を考えさせることが狙いです。

また、2年生になると、書くことを通じて考える力をつけるようにしています。資料文を読んで自分に引きつけて考え、視野を広げて捉え直し、その考えを文章でまとめていきます。大学で学びたいことを起点にして、学部・学科研究を深めてほしい。それが狙いです。

3年生の入試検討会に全教員が参加

本校が進路指導で大事にしているのは、「自分は何を学びたいのか」をしっかりと考えさせることです。教員は、生徒が納得のいく進

「見えない数字」を加味し志望校4パターンを決定

3年生は毎月のように模試や校内実力テストを受け、教員はその結果分析と生徒の志望校把握、その検討を重ねていきます。

年3回実施する三者面談の前に、3年生は担任と話し合い、何を学びたいのかを明確にして志望校を絞り込みます。特に時間をかけ力を入れているのは、2学期の志望校検討です。

Table with 4 columns: University Name, Faculty, Subject, and Evaluation. It shows four cases (A, B, C, D) for university selection based on exam scores and preferences.

担任と生徒が話し合って出願校を決定

私立大専願者も、第1志望校を[ケースA]とし、[ケースD]までの4パターンを考える。(偏差値3程度の違いを基準にする)

受験する入試方式(センター試験利用か一般入試か)と募集定員を記入

各科目に目標点を記入

進研模試でB判定とされる偏差値を記入

①10月までに、国公立大を志望する生徒は、センター試験の得点に応じた(ケースA)から(ケースD)までの志望校を国公立大用の用紙に記入します。国公立大専願以外の生徒は、国公立大用と私立大用の両方に記入します(左上参照)。

志望校の検討で生徒が参考にするのは、模試の判定や合格ラインの偏差値です。判定に沿って書けば楽ですが、生徒もそうしがちですが、果たして2学期・秋の判定で決めてしまった方がいいのか。そこで活用するのが、生徒の伸びしるを裏付ける校内実力テストの結果です。採点をした教員は、記述力や難問の解答ぶりなど、生徒や保護者には見えていない数字・学力を把握しています。長年にわたる本校の実力テストの分析結果や添削の様子なども含めてアドバイスをしています。

3年間の進路指導の流れ. Timeline from 3 years to 1 year with monthly activities. 3年: 4月 チャレンジ精神を... 2年: 7月 家庭学習の充実... 1年: 4月 授業に慣れる... 3年間の進路指導の流れ

\*1: 高校生活を送る方針を検討 \*2: 春休みの学習状況を把握 \*3: 生活実態調査の分析報告

【 】内は進路目標 ■ 教員の行事 ■ 保護者向け行事

取材・文/山本直子 撮影/柳田隆司